

循環器内科

診療科目：循環器内科

診療科担当研修責任者名：南野 徹（循環器内科教授）
診療科連絡先担当者名：柳川 貴央（循環器内科総括医長）

連絡先：takao-ya@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：26人。17年度：28人。18年度：25人。19年度：10人。20年度：12人。21年度：17人。22年度：15人。
23年度：17人。24年度：11人。（第一内科実績） 25年度：5人。26年度：7人。27年度：8人。28年度：7人。
29年度：7人。30年度：13人。

受入期間：1ヶ月以上（相談可）

同時受け入れ可能数：8人以内

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

総合内科専門医21人、循環器専門医24人、日本心血管インターベンション学会専門医1人、日本不整脈心電学会不整脈専門医4人、高血圧専門医1人、心臓リハビリテーション指導医4人、動脈硬化専門医1人、超音波学会専門医2人、救急専門医1人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

日本内科学会教育施設、循環器専門医研修施設、インターベンション治療学会研修施設、不整脈専門医研修施設、日本動脈硬化学会専門医教育施設、日本超音波学会専門医研修施設、認定心臓リハビリテーション実施施設

診療科の概説・特徴

循環器内科学教室は平成24年9月に旧第一内科が分野別を新たに編成して誕生した新しい教室である。高度で洗練された循環器内科診療をめざす医師が集い、修練を積んでいる。高血圧、糖尿病、高脂血症など需要の多い疾患から、心不全、心筋梗塞、不整脈などの救急治療はもちろん、難治性疾患の壁を突破するためにより高度な医療とその基礎となる研究に取り組んでいる。現在、新潟県および近県および関東の関連病院と患者診療で連携し、また基礎研究では世界的にその成果を発揮している。虚血性心血管疾患、心不全、不整脈疾患を診療する3グループがあり、それぞれが連携して治療、臨床研究および基礎研究を行っている。平成21年より救急外来体制が再編成され、急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈による搬送がより増加している。年間250件以上の冠動脈カテーテル治療、50件以上の血管内治療および構造的心疾患に対するカテーテル治療、200件以上の不整脈カテーテル心筋焼灼術が行われ、埋め込み型心臓デバイスの埋め込み数でも全国有数である。また、重症心不全や肺高血圧症の検査・治療についても新潟県の拠点となっている。再生医療分野の基礎研究、不整脈分野の基礎研究から臨床応用を行っている。基礎研究分野においては、遺伝性不整脈、再分極異常、J波症候群や心筋炎の研究で世界をリードしてきたのに加え、新体制では、老化および細胞老化と代謝障害など心疾患を含めた全身疾患との関連について世界的な研究を行い、今後の臨床への発展に向けて日夜努力している。

診療科研修の特徴等

- ①前期研修では、内科医としての全身診療技量を身につけることを最重要に考える。循環器疾患については診断から治療、緊急対応、そしてその土台となる基礎的背景までの専門的な研修を行い、生涯の医師としての診療と研鑽に役立つ研修を行っている。
- ②病棟では指導医と若手循環器内科医によるチーム主治医制をとっている。研修医はその一員として主体的に診療に関わり、循環器疾患一例一例に対してきめ細かな指導を受けることで、質の高い研修が可能である。
- ③循環器疾患における検査手技について：
救急診療において必須である12誘導心電図および超音波でのスクリーニング検査など習得が可能であり、臨床医としての基本的な質を高めることができる。心臓カテーテル検査・冠動脈形成術、電気生理検査・カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー・植込み型除細動器の植込みおよび管理なども経験することが可能である。
- ④急性心筋梗塞、急性心不全、発作性不整脈など救急処置を必要とする循環器疾患への対応も重要な研修項目であり、救急部との連携のもと研修でき、また集中治療室での全身管理の基礎を学ぶこともできる。
- ⑤一方で近年高齢化により増加の一途をたどる、慢性心不全患者に対するリハビリを含めた包括的医療など、一般内科へも通ずる総合的な管理も実践できる。
- ⑥検討会を通してプレゼンテーション能力を養うとともに、臨床研究の立案など探求的思考の習得を目指して、教育を行っている。

血液・内分泌・代謝内科

診療科目：血液・内分泌・代謝内科

診療科担当研修責任者名：曾根 博仁（血液・内分泌・代謝内科教授）
診療科連絡先担当者名：瀧澤 淳（血液内科）
山田 貴穂（内分泌・代謝内科）

連絡先：juntaki@med.niigata-u.ac.jp（血液内科）
t-yamada@med.niigata-u.ac.jp
(内分泌代謝内科)

新臨床研修医指導実績：16年度：26人。17年度：28人。18年度：25人。19年度：10人。20年度：12人。21年度：17人。22年度：15人。
23年度：17人。24年度：11人。（第一内科実績） 25年度：10人。26年度：9人。27年度：12人。28年度：9人。
29年度：7人。30年度：21人。

受入期間：1ヶ月以上（ただし、1年目研修医は2ヶ月以上が望ましい） 同時受け入れ可能数：8人以内

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

総合内科専門医11人、血液専門医11人、糖尿病専門医10人、内分泌代謝専門医5人、がん薬物療法専門医2人、輸血・細胞治療学会認定医4人、がん治療認定医7人、日本造血細胞移植学会認定医2人、動脈硬化学会専門医1人

◇◇◇学会認定指導医数◇◇◇

内科学会指導医12人、糖尿病学会指導医2人、内分泌学会指導医2人、血液指導医5人、臨床腫瘍学会指導医5人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

日本内科学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本血液学会教育施設、臨床腫瘍学会教育施設、日本輸血・細胞治療学会教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本動脈硬化学会認定教育施設

診療科の概説・特徴

全国的に内科の臓器別細分化が進む中、血液・内分泌・代謝分野を含む当科は、急性から慢性、重症から軽症、若年から老年、腫瘍から動脈硬化・生活習慣病までを幅広くカバーできる「総合内科」のアプローチを重視している。そして大学病院と市中病院の良い点を組み合わせたフレキシブルな研修プログラムにより、最新の知見・技術と豊富で多彩な症例経験を兼ね備えた国際的に通用する専門医を輩出してきた。血液学は臨床腫瘍学の最先端として進歩し続けている分野であり、内分泌・代謝学は患者が最も多く、健康寿命延伸実現の先頭を走る分野で、共に極めて国民的ニードが高く、一生をかけるに値する分野である。

古い大学医局のイメージとはかけ離れた温かい教育的雰囲気は、患者さんに寄り添う人間性豊かな専門医養成のために、当科が最も大事にしている特長の一つで、学生・研修医教育には定評がある。

研究についても、教科書やガイドラインを書き換えるような臨床研究から、難治疾患の新治療法に直結する基礎研究まで、いずれも国際レベルで幅広く展開されており、各人の興味と希望によりいつでも経験可能である。

診療科研修の特徴等

前期研修では、総合内科専門医をターゲットに当科両分野に関する研修も行う。両分野とも、一臓器でなく環境・心理も含めて全人的に診る能力が要求されるため、内科医としての基礎を身につけるのに最適な分野であり、一例ずつ丁寧な指導を受けながら余裕を持つ「考える内科」の研修ができる。選択科目研修では希望により、両分野同時あるいは各分野に絞った研修もいずれも可能である。意欲的な研修医には学会発表も推奨し、さらに高度な内科的思考を身につける指導も行っている。

後期研修プログラムは、希望の将来像（開業、市中病院勤務、大学教員など）あるいは様々な個人的事情（出産・育児・介護、留学など）に応じ個人別かつ柔軟に組まれるのが当科の特長である。血液班または内分泌・代謝班のいずれかに属してそれぞれの専門医を目指すことも、両分野の専門医を同時に取得して（ダブルボード）、現場医療の最前線で多面的に活躍することも可能である。

血液学については、最新技術を駆使した臨床腫瘍学と移植医療が、内分泌・代謝学については、内分泌疾患全般に加え、糖尿病、脂質異常症や肥満、高血圧も含めた生活習慣病全般の予防治療がそれぞれ習得できる。